

研究に関する公開情報

公立陶生病院では、以下にご説明する研究を行うことを計画しています。この研究では通常の診療で得られた過去の情報を使用します。本研究に診療情報を使用されることを望まない方は、下のお問い合わせ先に申し出ただけでしたら、その方の診療情報を収集することはありません。お申し出になられても、診療を受ける上で不利益を被ることはございませんのでご安心ください。また、この研究は当院のみで実施されます。

[研究課題名] 当院におけるEBVウイルス感染症患者の検討

[当院研究責任者] 部署名 感染症内科 氏名 武藤 義和

[研究の背景] Epstein barr virus(EBV)による初感染は伝染性単核球症の主な原因とされており、日本人における成人の抗体保有率は90%以上とされています。ほとんどは幼少時に罹患しており、まれに思春期および成人になってから初感染を受けた場合、咽頭痛、発熱、頸部リンパ節腫脹などの症状が出ます。自然軽快がほとんどですが、まれに脾破裂などをきたすこともあります。しかしEBV感染症は診断が難しく、検査結果を得るのにも時間がかかることや、細菌感染を疑い抗菌薬を処方されることで皮疹が起きやすいなど、未だ曖昧な部分が多くあり、かつ当院近隣における発生頻度も不明であります。そのため病気の臨床経過や診断に有用な所見などに関する検索を行い早期発見に務められるようなデータを集積すること、最近報告が増えている慢性活動性EBウイルス感染症という疾患についてその臨床像をまとめるため研究を計画しました。

[研究の目的] EBVによる感染症の診断の特徴と臨床経過による変化を明らかにすること、および慢性活動性EBウイルス感染症という疾患の臨床像をまとめることを目的とします。

■ 研究の対象となる方

2014年4月から2019年3月に公立陶生病院を受診された方のうち、伝染性単核球症の疑いで抗体検査もしくは臨床的にEBV感染症と診断を受けた方。

■ ご協力頂く内容

上記期間に診療上得られた検査データと、診療録に記録された診療情報(年齢、性別、身体所見、症状、採血検査、画像検査、生理検査結果、治療経過)を研究に使用させていただきます。それらの使用に際しては、研究代表者がこれを管理し、政府が定めた倫理指針に則って個人情報と厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されることはございません。診療以外での採血など、患者さんに新たにご負担頂くことはございません。

■ 個人情報に関して

あなたのご希望により、この研究に参加して下さった方々の個人情報の保護や、この研究の独創性の確保に支障がない範囲で、この研究の計画書や研究の方法に関する資料をご覧いただくことや文書でお渡しすることができます。また、本研究で収集させて頂いたご自身の情報を当院の規定に則った形でご覧頂くことも出来ます。ご希望される方は、どうぞ記載のお問合せ先にお申し出ください。

■ お問い合わせ先 公立陶生病院 電話番号 0561-82-5101
研究代表者 感染症内科 武藤 義和